

元町通りテーブル 実施報告書

2022年12月報告

一般財団法人武蔵野市開発公社

目次

| | | |
|-------|-----------------------------------|----|
| 1 | 元町通りテーブルの実施概要 | 3 |
| 1.1 | 目的と位置づけ | 3 |
| 1.2 | 実施主体 | 3 |
| 1.3 | 開催日時と天気 | 3 |
| 1.4 | 開催場所 | 3 |
| 1.5 | 実施内容 | 4 |
| 1.6 | その他 | 4 |
| 2 | 実験 | 5 |
| 2.1 | 問題意識 | 5 |
| 2.2 | 都市空間マネジメントの6要素と実験の関係性 | 5 |
| 2.3 | 実験の先に見据えた理想像 | 6 |
| 2.4 | 実験の目標 | 6 |
| 2.5 | 調査項目（実験を通じて把握を目指した内容）とその手段 | 7 |
| 2.6 | 実施内容と実験結果 | 8 |
| 2.6.1 | 暮らし・生活 | 8 |
| 2.6.2 | 担い手 | 15 |
| 2.6.3 | 事業・資金 | 18 |
| 2.6.4 | 空間 | 20 |
| 2.6.5 | 運営 | 30 |
| 2.7 | 制度 | 37 |
| 2.7.1 | 実験に先立って行った行政手続き | 37 |
| 2.7.2 | 将来的に日常的な取組みとするために必要な法的な位置づけ | 38 |
| 3 | まとめ | 39 |

1 元町通りテーブルの実施概要

1.1 目的と位置づけ

「市道 189 号（元町通り）における新たな公共空間の在り方の模索」と「武蔵野市開発公社（以下、公社）・吉祥寺元町通り商店街振興組合（以下、商店街）・三菱商事都市開発株式会社（以下、MCUD）の三者による連携関係によるエリアのにぎわい創出」を目的に、吉祥寺グランドデザイン 2020 にも描かれた「まちなかにおける滞留空間」を創出する実験として位置づけた。

また、元町通りテーブルは公社と商店街の共催事業であるが、MCUD が商店街の組合員として深く関わった。

1.2 実施主体

公社及び商店街（共催） ※MCUD については 1.6 を参照

1.3 開催日時と天気

開催日時 2022 年 10 月 8 日（土）14 時～20 時 曇り時々晴れ

2022 年 10 月 9 日（日）14 時～16 時 曇りのち雨

※10 月 9 日は 16 時より雨が降ってきたため、当初の 20 時から終了時刻を早めた。

※道路管理者及び交通管理者への提出文書は、設営・撤去時間を含む 13 時～21 時を実施期間とした。

1.4 開催場所

武蔵野市道 189 号（元町通り）の一部

※吉祥寺本町 1-11-5（コピス吉祥寺 A 館前）

【元町通りの基礎情報】

道路幅員：約 8 m

交通規制：車両通行止め（9-12 の居住者用車両を除く）

道路管理者：武蔵野市都市整備部道路管理課長

交通管理者：武蔵野警察署長



1.5 実施内容

道路の一部にテーブルセットを15セット、イーゼルを6台(9日は3台)設置した。
テーブルセットは誰もが自由に利用できるものとした。



実施風景

1.6 その他

- ・10月7日(金)から10月10日(月・祝)までの4日間、元町通りに面する商業施設「コピス吉祥寺」では運営会社のMCUDが「Beer and Walk」というイベントを同時開催していた。
- ・MCUDはBeer and Walkと元町通りテーブルの実施にあたり、イベント会社に運営を委託していた。合計6人の臨時スタッフは、商店街組合員であるMCUDの一員として元町通りテーブルのスタッフとして運営や警備を担当した。

2 実験

2.1 問題意識

地域状況や路線ごとの道路状況によって、ウォークブルや公共空間の在り方は異なるのではないか。

2.2 都市空間マネジメントの6要素と実験の関係性

公社では、まちづくりの事例として優れている事例には「暮らし・生活」「空間」「運営」「資金」「担い手」「制度」といった6要素が備わっており、これらが都市空間マネジメントにとって重要であると整理している。

| 要素 | 解説 |
|--------|---|
| 暮らし・生活 | 日常の暮らしや生活にどのような豊かさをもたらすか |
| 担い手 | 豊かさをもたらす事業や取り組みの担い手は誰なのか |
| 事業・資金 | 事業や取り組みを成立させるために、どのようなビジネススキーム（稼ぐ仕組み）又は費用負担の仕組みを採用するか |
| 運営 | 現場においてどのような運営方法で事業や取り組みを合理的かつ円滑に行うか。 |
| 空間 | 豊かな暮らしや生活を実現するために、どのような空間（機能やデザインなど）を用意するのか。 |
| 制度 | 事業や取り組みを継続的なものとするために、どのような制度やルール、契約等を整える必要があるか。 |

都市空間マネジメントに必要な6要素とその解説

価値観の多様化が進み、他者との連携がより重要となっている現代社会において、これら6要素の適切な状態やバランスを見極めることは容易ではない。だからこそ体験を通じて適切な状態を見極め、持続可能なものを模索するプロセスが必要である。私たちは、「この体験を通じて見極めていくプロセスと結果」を実験と捉え、体験するからこそ得られる情報の獲得を目指した。

2.3 実験の先に見据えた理想像

私たちはただ「体験する」のではなく、理想の空間像をある程度具体的にイメージし、先の6要素ごとに意味のある情報を得られることが大切だと考えている。

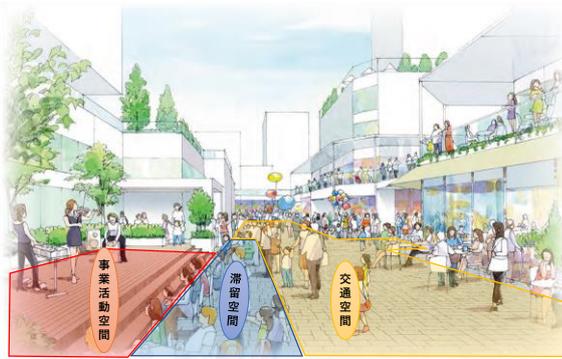
今現在、私たちの手に届く範囲で見据えた理想像は以下のとおりである。

【理想像】

地域団体によって週末の午後2時から午後8時までの時間限定でテーブルセットが道路上に設置され、まちなかにある「誰もが憩える場所（滞留空間）」として開かれている。



午前：交通空間としての道路



午後：交通空間と滞留空間が調和した道路

2.4 実験の目標

今回の実験の実施にあたっては、以下2点を大きな目標とした。

- (1) 道路空間内に一時的な滞留空間を創出してみることで都市空間マネジメントに必要な6要素ごとに、“元町通りにおけるウォークブルの在り方”及び“元町通りにおける新たな公共空間の在り方”を模索すること。
- (2) 「道路空間の一部を週末の午後限定で滞留空間に切り替える取組み」の運営を体験することで、公社、商店街、MCUDの連携関係を構築し、日常的な運営を念頭に運用上の課題等を把握すること。

2.5 調査項目（実験を通じて把握を目指した内容）とその手段

実験を通じて、把握を目指した内容とそのために採用した手段は以下のとおり。

| 要素 | 調査項目（実験を通じて把握を目指した内容） | 手段 |
|--------|---|------------------------|
| 暮らし・生活 | まちなかに滞留空間を創出することへの市民の評価 →「週末の午後2時から午後8時までの時間限定でテーブルセットが道路上に設置され、まちなかの『誰もが憩える場所』として開かれている」元町通りが、市民に受け入れられるのか。 | ①アンケート ②利用者の観察 |
| 担い手 | 公社、商店街及びMCUDの3者の役割分担が適切であるか。 | ①実体験と自己評価 |
| 事業・資金 | 3者による費用負担の在り方やバランスが適切であるか。 | ①実体験と自己評価 |
| 空間 | ア) テーブルセットやイーゼル等の数や配置、プランターなどの空間演出は適切であったか。 | ①アンケート ②実体験と自己評価 |
| | イ) 歩行者の交通量に対し、歩行空間として狭まった元町通りの幅員は適切であったか。 | ①歩行者交通量の簡易調査 ②アンケート |
| 場所の運営 | 合理的かつ円滑な運営を目指すための改善点は何か。 | ①実体験と自己評価 |

実験を通じて把握を目指した内容と及びその手段

※6 要素の一つである「制度」は「事業や取り組みが固まった後に用意する道具」のようなものであることから、「2.7 制度」にて詳細を記述する。

2.6 実施内容と実験結果

6要素の内「制度」を除く5つの要素ごとに、実験内容と実験の結果を整理する。

2.6.1 暮らし・生活

(1) 実験的に実現した「暮らし・生活」

週末の午後2時から午後8時までの時間限定で、まちなかの「誰もが憩える場所」として元町通りに設置されたテーブルセットを利用できる過ごし方。



実施風景

(2) 実験方法と結果

① web アンケート

i) 把握を目指した内容

テーブルセットの利用者又は歩行者の視点から、吉祥寺のまちなかに滞留空間が増えることについての意見の把握を目指した。

ii) 方法

Google フォームを使ったアンケートを行った。アンケートの参加方法は、会場に設置されているポスター又はテーブルセットに貼っている注意書きのQRコードをスマートフォン等で読み込む形式を採用した。



テーブル天板に貼りつけた案内

掲示したポスター

質問としては2つ用意した。

一つ目は「問2 吉祥寺のまちなかに座る場所が増えた方が良いと思いますか？」という問いに対して、回答を「増えた方が良い」から「今のままで良い」までを5段階としたものである。

問2 吉祥寺のまちなかに座る場所が増えた方が良いと思いますか？

| | | | | | | |
|---------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |
| 増えた方が良い | <input type="radio"/> | 今のままで良い |

二つ目は「問5 吉祥寺のまちなかに『誰もが無料で憩える場所があること』についての感想や意見を聞かせてください」という自由記述の問である。

問5 吉祥寺のまちなかに「誰もが無料で憩える場所があること」についての感想や意見を聞かせてください

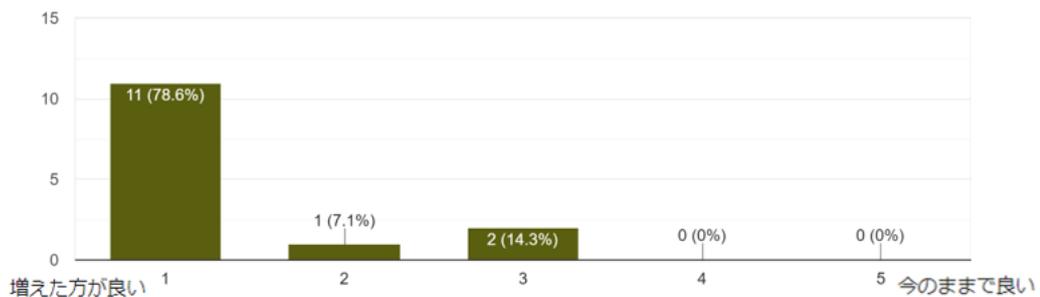
記述式テキスト（短文回答）

iii) 結果

回答者 14 名の内、問 2 に対して「5 今のままで良い」という回答者は 0 名、「1 増えた方が良い」が 11 名となった。残りの 3 名も「2」又は「3」と回答している。回答者の全員が「現状と比較すると増えた方が良い」という意見を持っていることを確認できた。なお、元町通りテーブルを利用していない回答者（開催中に通行しただけの人）も「今のままで良い」とは回答していなかった。

問 2 吉祥寺のまちなかに座る場所が増えた方が良いと思いますか？

14 件の回答



また、問 5 についての回答は以下のとおり。

問 5 吉祥寺のまちなかに『誰もが無料で憩える場所があること』についての感想や意見を聞かせてください

【肯定的な意見】

- ・活性化に繋がると思われる
- ・落ち着ける場所があるのは良いと思います
- ・とてもよい企画だと思います
- ・あったほうが良い。座っている人は皆さん楽しそうだった。
- ・ちょっとコーヒ一片手に座れるベンチがあると嬉しい。(外のベンチは汚くなるので吉祥寺にあう景観のベンチだとなお良い)
- ・VERYGOOD
- ・以前からあったらいいなあーと思っていました。無料で憩える場所があるのはとてもありがたいです。買い食いもすすむ！笑
- ・乳幼児を連れた家族連れ、高齢者に良いと思います。そういったかたむけの優先

| |
|---|
| <p>席も設けると一層良い</p> <ul style="list-style-type: none">・すごくよかったです！ぜひ毎週やってほしいです！・街中は座るところが少ないので、すごく良かったです。・大賛成。高齢なので街歩きの合間にひと休みできるこうした場所は欲しい。・吉祥寺は土日はお茶を飲む場所が満員ちょっとした休憩をとる時にテーブルセットがあるととても嬉しい <p>【否定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・店に入ればいいので、現状で十分 |
|---|

iv) 考察

回答者の9割以上が元町通りテーブルの利用者であるため、来街者の平均的な意見ではないこと、また回答数が少ないことを踏まえる必要はあるが、実際の利用者は「まちなかで滞留空間が増えた方が良い」という意見を持っていることがわかった。

② 観察

i) 把握を目指した内容

「誰もが無料で利用できる」元町通りテーブルが、コピス吉祥寺でBeer and Walkが同時開催されているという条件の中で、どのような使われ方をするのかを把握する。

ii) 方法

公社職員が現場の見守り活動を行いながら、利用方法と利用者の属性を観察した。なお、今回は専門調査員による観察でも映像解析による観察ではないため、利用者・方法ごとの正確な人数や利用時間などの把握はしておらず、実際に目視確認できた事例を整理することとした。

iii) 結果

観察の結果、利用者としては「家族と思われる」「2名以上の成人女性又は男性グループ」「カップル又は夫婦」「2名以上の小中学生グループ」「ペット連れの人」など、幅広い利用属性が確認できた。また、利用方法としては「休憩」「飲食」「読書」「待ち合わせ」「談笑」「荷物整理」等の多様な利用方法が確認できた。

実際の利用風景の例は以下のとおり。



買い物中の休憩 (家族・成人女性グループ)



買い物中の休憩 (夫婦・ペット)

デート中の休憩 (カップル)



買い物中の靴下の履き替え (夫婦)

飲食_ビール(成人男性グループ) ※Beer and Walk 参加者



飲食_ハンバーガー (家族)

飲食_ドーナツ (家族)



読書



待ち合わせ (家族)



談笑 (複数の親子グループ・小中学生のグループ)



iv) 考察

利用者の属性及び利用方法共に多様性が見られた。

利用としては Beer and Walk の参加者による「ビールやつまみの飲食」が多かったが、周辺飲食店で購入したものと思われるテイクアウト商品の飲食といった利用も一定数あったこと、元町通りでは普段あまり見かけない小中学生のグループが談笑の場として利用していたことや、ペット連れの来街者が利用していたことなどが印象的だった。このことから、まちなかでの豊かな暮らしを実現するために、また公共空間としての使い方の一つとして「誰もが無料で利用できる」というコンセプトは適当であり、屋外空間だからこそ提供できた価値があったと評価できる。

【参考】MCUDが実施したアンケートについて（1）

MCUDはBeer and Walkの開催に伴いアンケートを実施している。このアンケートに、元町通りテーブルに関する質問を入れていただいている。

アンケート用紙を用いた対面式の調査で、回答者の意向に応じて①調査員が回答を聞き取って調査票に記載する、②回答者自身が調査票に回答を記載する方法で回答を収集していた。

■調査項目（「暮らし・生活」に関わるもので、自由記述式）

吉祥寺のまちなかに「誰もが無料で憩える場所があること」について

【回答一覧】

- ・とても良いと思います（50代女性）
- ・すごくいい（30代女性）
- ・人が集まってコミュニケーションできる場になるので有難いと思います（20代男性）
- ・私は年寄りなのでとてもありがたいです（60歳以上女性）
- ・コロナがおさまればぜひ続けてほしい（30代女性）
- ・活気があって良い（20代男性）
- ・良いと思いますが、いつも満席でなかなか利用できません（40代女性）
- ・大変ありがたいです。（50代男性）
- ・Good（30代男性）
- ・いいですね（60歳以上男性）
- ・良いと思います！！（40代男性）
- ・良いと思います（50代男性）
- ・人が集まる良い取り組みだと思います（40代男性）
- ・座って休憩や食事ができ便利（20代女性）
- ・もっと増えるといい（30代女性）
- ・とてもよいと思います（40代男性）
- ・とっても良い（40代男性）
- ・休む場所として良いと思う（20代男性）
- ・良いと思う（40代男性）
- ・思ったよりすぐ座れたのでおどろきました。また利用したいです。（50代女性）
- ・どこも混んでいてお店に入れなかったのが、このテーブルのおかげでご飯が食べられました（40代女性）
- ・ステキです！（20代女性）
- ・気軽に立ち寄れる場所があると嬉しい（20代男性）
- ・使いやすいし、テイクアウトしやすいのでとても良いと思います（30代女性）

2.6.2 担い手

(1) 役割分担と実施体制

元町通りテーブルは公社・商店街・MCUD が担い手となり、実施した。3者による主な役割分担は下表のとおり。

| | 公社 | 商店街 | MCUD |
|-------|---|--|---|
| 開催前 | <ul style="list-style-type: none"> ・3者協議の設定 ・会場レイアウト検討 ・行政機関との事前調整・協議 ・行政機関への申請手続き等 ・プレスリリースの作成・発信 ・アンケートフォームの作成 ・イベント保険への加入 <p style="text-align: right;">など</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・活性化協議会などへの説明 ・荷捌きドライバーへの事前告知と協力依頼 ・レンタル品の手配 ・レンタル品の保管場所提供 <p style="text-align: right;">など</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・レンタル品（テーブルセット）の手配・サポート ・開催日を含む運営に係る確認、事前調整 ・プロモーション <p style="text-align: right;">など</p> |
| 開催日当日 | <ul style="list-style-type: none"> ・テーブルセット等の配置指示 ・イーゼル等の設営、撤去 ・会場の見守り ・記録用写真等の撮影 ・アンケート・観察の実施 <p style="text-align: right;">など</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・テーブルセットの設営、撤去 ・会場の見守り ・テーブルの清掃 <p style="text-align: right;">など</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・テーブルセットの設営、撤去 ・会場の見守り ・利用者アンケートの実施 ・ゴミの回収 <p style="text-align: right;">など</p> |
| 開催後 | <ul style="list-style-type: none"> ・報告書等の作成 ・アンケートの集計 | <ul style="list-style-type: none"> ・レンタル品の返却 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの集計 |

表-1 元町通りテーブル実施に係る役割分担

※**太字・下線**については詳細を後述する。

また、開催日当日に各組織が充てた人数は以下のとおり。

| | 公社 | 商店街 | MCUD |
|-------|----|--------------------|------------------|
| 10月8日 | 1名 | 3名 内1名は設営・撤去時のみ | 8名 内6名は臨時スタッフ |
| 10月9日 | 2名 | 3名 内1名は設営・撤去時のみ | 8名 内6名は臨時スタッフ |

(2) 実体験による自己評価

それぞれの組織の特性を踏まえた役割分担になっており、準備段階から協働関係が成立し、当日もトラブルなく円滑な運営ができた。元町通りテーブルを運営する担い手として3者による連携体制は各々が良かったと評価している。ただし、集中的に労働力が必要となる「テーブルセットの設営、撤去」の作業を通じて、認識できた課題を記載する。

i) テーブルセットの設営・撤去に係る作業員の確保について

テーブルセットの設営と撤去は、元町通りテーブルの実施に際して最も労働的負担が伴う作業であった。今回は、主に商店街の3名とMCUDが手配した臨時スタッフ6名に公社職員1名を加えた計10名が担ったが、日常的な取組みとして実施するには体力的に厳しい労働だったと評価している。今後継続していくためには、元町通りテーブルの実施によって恩恵を受ける沿道店舗や吉祥寺デッキ利用者などに対して協力を求めたり、アルバイトなどの臨時スタッフを雇うなどの対応が必要かもしれない。

また、今回はMCUDが手配した臨時スタッフはBeer and Walkというイベントを開催していたから6名の作業員が頭数に入ったが、公社と商店街の2者による取組みとする場合には人手の確保が大きな課題になると考えている。

また、MCUDのイベントが同時に開催されていたとしても、今回の同様の関係が成立するかは不明確である。

ii) 現場運営上の責任者の明確化について

MCUDは商店街組合員の一員として元町通りの運営に加わっており、開催日両日ともに臨時スタッフ(Beer and Walkのスタッフを兼ねる)を手配していた。今回が始めての取り組みということもあり、状況に応じて公社職員や商店街役員の判断に基づき元町通りテーブルの運営をしていたため、MCUDを介さずに商店街又は公社から臨時スタッフに直接指示をしたことがあったが、臨時スタッフ側が直接の雇用主ではない商店街や公社からの指示に従うことに迷いを感じていたようだった。

公社と商店街が共催し、MCUDが深く関わったという複雑な関係性が、当日の指示

系統に関する認識の差を生んだ可能性は否めない。大きな問題ではないが、今後より円滑な運営を目指すにあたっての、改善点であると考えている。

2.6.3 事業・資金

(1) 収支決算書

人件費を除く元町通りテーブルの収支は以下のとおりである。

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|----------------|-----------|-----------------|-----------|
| 元町通り商店街振興組合負担金 | ¥ 220,000 | テーブルセット_レンタル料 | ¥ 220,000 |
| 武蔵野市開発公社負担金 | ¥ 15,250 | イベント保険_保険料 | ¥ 13,150 |
| | | 道路使用許可手続き_申請手数料 | ¥ 2,100 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | 来年度繰越金 | ¥ - |
| 収入計 | ¥ 235,250 | 支出計 | ¥ 235,250 |

(2) 実体験と自己評価

2日間の単発イベントと捉えた場合、無駄な支出を伴わず実施ができたものと考えているが、日常的な取り組みを目指した場合の検討項目等を以下に記載する。

i) テーブルセットを購入するか否か

今回はテーブルセットをレンタルして実施している。支出として最も大きいのはテーブルセットのレンタル料である。レンタル料のうち3割が運送費であるため、日常的な取り組みとして実施する場合には、購入すべきか否かを検討する必要がある。なお、検討に際しては、レンタル費と購入費の単純な比較ではなく、購入した備品の保管場所を用意できるかどうかも考慮する必要がある。

ii) テーブルセットの設営・撤去に係る臨時スタッフの手配に伴う支出

MCUD が手配した臨時スタッフの働きが大きかったことを踏まえると、今回と同じ内容でも公社と商店街の2者による取組みとする場合には人手の確保が課題となることは前述のとおりである。その解決策として「臨時スタッフを雇う」という選択肢を採用するのであれば、その部分が支出として上乗せされてくることを念頭に置く必要がある。

iii) 道路占用料の支払いに伴う支出

今回は道路使用許可手続きに伴う申請手数料を武蔵野警察署に支払っているが、道路占用料については武蔵野市に対して支払っていない。これは、現行制度上は占用が認められず実験として実施していることによるものである。将来的に道路占用が許可されるようになった場合には、道路占用料の支払いが生じることを念頭に置く必要がある。

iv) 取組みに稼ぐ仕組みを取り入れた取組みの発展について

取組みを継続するための事業費確保の方法として、取組みに稼ぐ仕組みを取り入

れることも検討の余地がある。例えば、物販スペースを道路上に設けたり、パラソルに企業の公告を募集したりすることなどが考えられる。道路の占有・使用許可手続きにおいて許可を得るために乗り越えなければならないハードルは多いが、一つの可能性として捉えている。

V) 各種補助金等の活用

日常的な取り組みとして実施する場合には、いつ無くなるかわからない補助金や助成金を頼るのは望ましくないが、一時的に補助金等を活用して実施しながら持続可能な状態を目指すことは考えられる。

2.6.4 空間

ここでは、計画上の配置等と実際の配置について整理した後に、空間の視点としてア) テーブルセットやイーゼル等の数や配置、空間演出は適当であったか、イ) 歩行者の交通量に対し、歩行空間として狭まった元町通りの幅員は適切であったかの2点に分けて整理する。

(1) 創出した滞留空間について

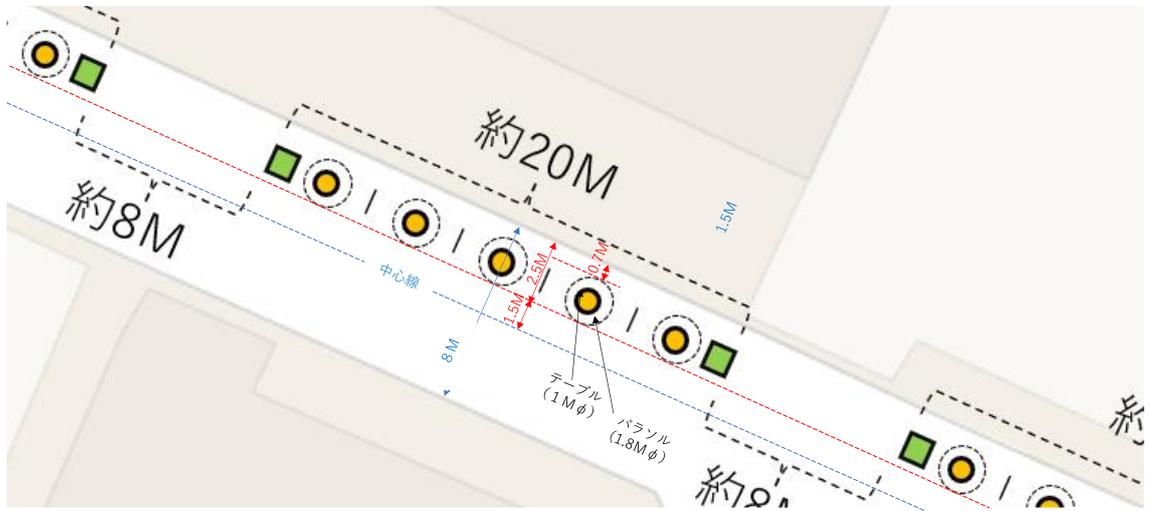
① 計画上の配置

テーブルセットと共に装飾としての植栽プランターやチラシ配布用のマガジンラック、ポスター掲示用のイーゼルの、元町通りの北側官民境界から2.5m（縁石からパラソルの端部までの距離）の範囲に計画した。数量等と配置図は以下のとおり。

【設置物と数量（計画時）】

| | | |
|---------------------|---|--------|
| ・パラソル付きテーブル&チェア（4脚） | : | 計15セット |
| ・プランター | : | 計6個 |
| ・イーゼル&ポスター | : | 計9個 |
| ・マガジンラック | : | 計12個 |





② 当日の配置

コピス吉祥寺の館内や沿道店舗の出入り口、コンコース等の南北導線を考慮し、設置物の数を減らすことで空間的な余裕を生み出し、テーブルセットの配置を調整した。



【設置物の変更点】

- ・プランターの設置取りやめ
- ・マガジンラックの設置取り止め及びイーゼル（マガジンラック付き）の採用
- ・イーゼル&ポスターの設置数の削減

【設置物と数量（当日）】

- | | | |
|-----------------------|---|-------------|
| ・パラソル付きテーブル&チェア（4脚） | ： | 計15セット |
| ・イーゼル（マガジンラック付き）&ポスター | ： | 計3個 |
| ・イーゼル&ポスター | ： | 計3個（10日は0個） |



歩行者の交通空間を確保したテーブルの配置状況

③ 道路上への設置物

設置物のデザインは以下の写真のとおり。



テーブルセット



イーゼル (マガジンラック付き) & ポスター

週末の午後2時から午後8時までの時間限定でテーブルセットが道路上に設置され、まちなかの「誰もが憩える場所」として開放することを目指した。

1日目の10月8日(土)は当初の計画通り14時から20時まで実施できたが、2日目の10月9日(日)は16時からの降雨に対応して14時から16時までの実施となった。ただし、初日が設営に1時間を要したのに対して、二日目は半分の30分で準備ができた。

(2) 項目ごとの実験方法と結果

ア) テーブルセットやイーゼル等の数や配置、空間演出は適当であったか

①web アンケート

i) 把握を目指した内容

テーブルセットの利用者又は歩行者の視点から、「テーブルセットやイーゼル等の数や配置が適当であったか」「テーブルセットのデザイン等の空間演出は適当であったか」といった滞留空間に対する評価について把握を目指した。

ii) 方法

Google フォームを使ったアンケートを行った。アンケート方法等は前述のとおり。

質問としては「問6 吉祥寺のまちなかに座る場所が増えた方が良いと思いますか?」としている。

⋮

問6 まちなかの憩える場所として用意された「テーブルセットや植栽など」のデザインや仕様、配置などについての感想や意見を聞かせてください

記述式テキスト(短文回答)

iii) 結果

アンケートの結果、以下の回答を得た。

問6 まちなかの憩える場所として用意された「テーブルセットや植栽など」のデザインや仕様、配置などについての感想や意見を聞かせてください

【肯定的な意見】

- ・アクセントになる
- ・企画の看板の位置の工夫が必要かも。植物にはとても癒されます。素敵です。
- ・とても良かったです。
- ・今回みたいなキッチンカーが出てたり、気軽にテイクアウトとか買えるお店のそばにイスがあつたりするといい。

- VERY GOOD
- 今回座った場所は道の端でしたが、とても落ち着いて憩えました。道の真ん中でも活気のある感じが吉祥寺ぽくていいかもしれないですね。パラソルが緑色なのも落ち着きます。
- 今回のもので十分
- 素敵だったなと思います。今後も期待しています！
- バランスよくあり、よかったです。もっとテーブルと椅子があっても嬉しいです。
- 元町通りのテーブルセットのデザイン 4 人組でしたが相席でも気にならないスペースでした。配置につきましても隣との間隔も程よいかんじでした。配置も良かったです。

【否定的な意見又は改善点の指摘】

- ウッド調などもう少しおしゃれに。
- 市販のものを臨時でおくのであれば景観を損なう

iv) 考察

全体的に好意的な意見があったことに加え、「もっとテーブルと椅子があっても嬉しい」という意見を踏まえると、街としては座る場所が足りておらず、より多くのテーブルを用意できることが期待されているように思われる。一方、沿道店舗や施設への導線及び視認性を考慮すると、北側に寄せた配置だとこれ以上増やすことは難しいと考える。また、「今回座った場所は道の端でしたが、とても落ち着いて憩えました。」というように、方々に寄せた副次的効果が明らかになった。一方、「道の真ん中でも活気のある感じが吉祥寺ぽくていいかもしれない」という意見があるように、道路の真ん中に配置すると共にテーブルセットの間隔をあけることで、コピス吉祥寺前に限らずサンロードから吉祥寺通りまでの元町通り全体にテーブルセットを配置する計画も検討の余地があるかもしれない。

空間演出としてのテーブルセットには、好意的な意見もあれば批判的な意見も見られた。これについてはかけられる費用によって変わってくるが、今後の取組みを通じてより良い在り方を模索していくことになる。

② 実体験による自己評価

i) テーブルセット及び装飾物の数と配置について

コピス吉祥寺の館内や沿道店舗の出入り口、コンコース等の南北導線を考慮して、植栽プランターの配置を取りやめ、イーゼル&ポスターの数も削減し

ている。この計画変更によって、当初計画していた数のテーブルセットを予定どおり配置することができた。歩行者が多い日中はほぼすべてのテーブルが常に利用されていた状況を踏まえると、プランターなどの装飾よりも、「座れる」という機能を持つテーブルセットを優先した計画変更は妥当だったものと評価できる。

ただし、今回はコピス吉祥寺 A 館一階の西端路面店舗が空室となっていたため店舗区画の前にテーブルセットを2組配置することができたが、コピス吉祥寺前での配置を前提とするとこの場所への配置は適切ではないため、最大13セットの数となるものと考えている。



また、イーゼル等の配置についても、歩行者の通行の妨げとはならない位置と角度だったと評価できる。

ii) パラソルについて

9日目は午後4時から雨となった。雨が降り始めてからは利用者が減っていったが、しばらくの間はパラソルの下で継続して利用する人もいた。今回レンタルしたパラソルは日除けを目的とした物であり、雨除けを想定した仕様ではなかった。

もし雨が降り始めても利用者がある間は継続して設置することを目指すのであれば、雨除け機能のあるパラソルを手配する必要があることを認識した。

イ)歩行者の交通量に対し、歩行空間として狭まった元町通りの幅員は適切であったか

① 歩行者交通量の簡易調査

i) 把握を目指した内容

交通空間として狭まった元町通りが、歩行者の交通量に対して適切な幅だったのかを判断するためのデータ（サンプル）の収集を目指した。

ii) 方法

公社職員が調査員となり、簡易的な歩行者交通量調査を行った。

調査員は下図に示すとおり、コピス吉祥寺敷地内から元町通りの歩行者交通状況を動画（撮影時間は1分間）で記録を取り、後日歩行者数をカウントして1m1分当たりの交通量を算出した。算出にあつては、歩行可能幅員5.5mとしている。



調査地点 位置図



撮影動画イメージ

iii) 結果

撮影した日時と結果は下表のとおり。

| | 10月8日(土) | 10月9日(日) |
|-------|--------------------------|----------------------------|
| 14:30 | 歩行者合計 111人 →20.2人/分・m | 歩行者合計 102人/分 →18.6人/分・m |
| 16:30 | 歩行者合計 88人 →16.0人/分・m | 雨天より実施せず |
| 18:30 | 歩行者合計 81人 →14.8人/分・m | 雨天より実施せず |

※少数第2位を繰り上げ

iv) 考察

国土交通省が公表している大規模開発関連交通マニュアル改訂版には、自由歩行が可能と判断できる目安として「～27 人/m・分」という基準が示されている。今回の調査結果ではいずれもこの基準を満たしており、「元町通りテーブルの実施に伴い歩行空間として狭まった元町通りは、歩行者の交通量に対して十分な幅員を確保できていた」と評価することができる。

ただし、今回実施した調査は極めて簡易な方法を採用していることを踏まえる必要がある。継続的な取り組みを目指す過程で「交通への影響」をより正確に示す必要があるのであれば、より実態を正確に把握できる調査を行う必要がある。

② 歩行者交通に対応し得る充分な施設計画とした上で、さらに快適な歩行環境の形成を行うことが必要である。

- 大規模開発地区は、都市内における交通施設整備の良好な事例となることが相応しいため、高水準のサービスを行うよう充分な幅員とすること。歩行者流量によるサービス水準は次のようであり、水準 A を目指すこと。

| | |
|-----------|-----------|
| A 自由歩行 | ～ 27人/m・分 |
| B やや制約 | 27～ 51 |
| C やや困難 | 51～ 71 |
| D 困難 | 71～ 87 |
| E ほとんど不可能 | 87～100 |

- 植樹、特殊舗装（カラー舗装等）、ストリートファニチュアの設置等が行われることが望ましい。

出典：国土交通省,平成 19 年 3 月,大規模開発関連交通マニュアル改訂版 P42

② web アンケート

i) 把握を目指した内容

歩行空間として狭まった元町通りの幅員は適切であったかを判断する材料の一つとして、テーブルセットの利用者又は歩行者の視点から元町通りの歩きやすさに対する意見の把握を目指した。

ii) 方法

Google フォームを使ったアンケートを行った。アンケート方法等は前述のとおり。

質問としては「問 3 実施期間中、元町通りの歩きやすさはどうでした

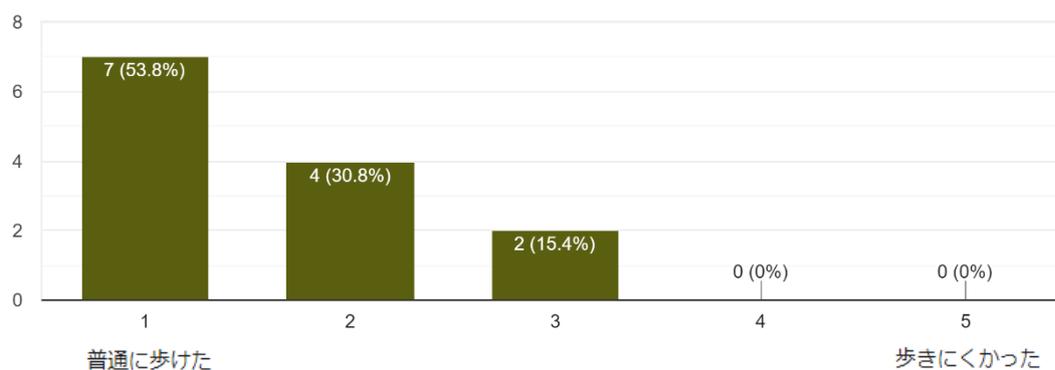
か？」として、回答を「普通に歩けた」から「歩きにくかった」までの5段階とした。

iii) 結果

回答者14名の内、「5 歩きにくかった」という回答者は0名、「1 普通に歩けた」が11名となった。残りの3名も「2」又は「3」と回答している。

問3 実施期間中、元町通りの歩きやすさはどうでしたか

13件の回答



※自由記述式のコメント欄には、交通に関しての否定的な意見はなかった。

iv) 考察

アンケートの回答者は主に元町通りテーブルの利用者だったことを踏まえる必要があるが、元町通りテーブルを利用していない回答者（開催中に通行しただけの人）が「5 歩きにくかった」と回答していないことから、元町通りテーブルの実施によって「歩行環境として著しく悪くなったわけではない」と認識される傾向が読み取れた。

ただし、今回の調査では回答者自身について問う設問を用意しなかったが、例えば健常者と視覚障害者では異なる回答になる可能性が高い。

以上のとおり、継続的な取り組みを目指すのであれば、交通空間である道路の性質を理解したうえで様々な視点から丁寧な調査を行い、空間的な配慮を検討していく必要があるかもしれない。

【参考】MCUD が実施したアンケートについて（2）

MCUD は Beer and Walk の開催にあたって、イベント参加者や元町通りテーブル利用者などを対象にアンケートを実施している。このアンケートに、元町通りテーブルに関する質問を入れていただいている。調査方法は前述のとおり。

■調査項目（「空間」に関わるもので、自由記述式）

まちなかの憩える場所として用意された「テーブルセット」や「植栽など」のデザインや仕様、配置などについて（フリーコメント）

【回答一覧】

- ・ベンチ等（テーブル（簡易付き））が増えたら嬉しいです（50代女性）
- ・とても良い感じですよ（60歳以上女性）
- ・とても可愛かった。夜にライトアップされたりしたら、時間を変えてまた来たい（30代女性）
- ・ただのテーブルデザイン？（30代男性）
- ・使えるルールについては考え方が良い（20代男性）
- ・赤良し（30代男性）
- ・OK（60歳以上男性）
- ・少し地味かな（40代男性）
- ・仕様・配置はとても良いと思います（50代男性）
- ・次回も期待します（40代男性）
- ・かなり席が埋まっていたのもっとたくさん配置してほしいです。ベンチ型などもよいと思います（40代男性）
- ・パラソルがあって良い、植え込みがステキ（20代女性）
- ・いいと思う（30代女性）
- ・もう少しあるとよいけど…仕方がない（60歳以上女性）
- ・町の風景とマッチして良いと思う（20代男性）
- ・すごくいいきれい（30代女性）
- ・適度におしゃれでいいと思います（50代女性）
- ・ホッとできます！（40代女性）
- ・最高です！（20代女性）
- ・すごくいい（40代男性）
- ・すてきです（30代女性）
- ・シンプルでも、おしゃれで街になじんでいると感じました（30代女性）

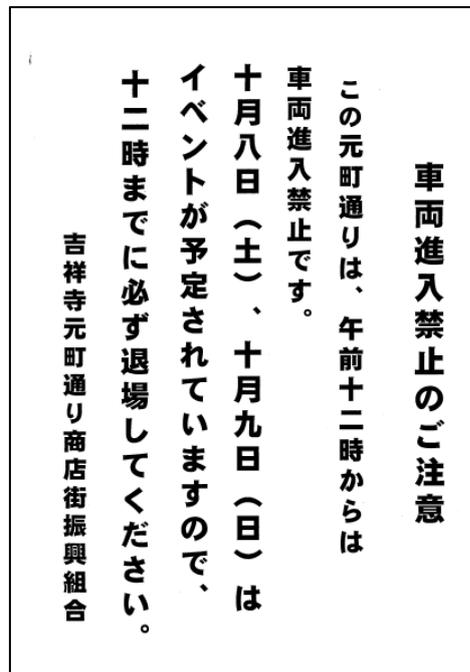
2.6.5 運営

役割分担は14頁に記載のとおり。ここでは、運営上のポイントとなった作業等について詳細に記述し、「実体験と自己評価」として課題等を整理する。

(1) 開催前

① 荷捌きドライバーへの事前告知と協力依頼

開催日の1週間前から、商店街より現地で荷捌きをしている配送会社のドライバーに以下のお知らせ文を手渡した。



商店街が配布したお知らせ文

② レンタル品の搬入と保管

今回のレンタル品は、本町新道からコピス吉祥寺の駐車場に入り、コスモビルにつながる地下通路(コスモビルのオーナーが道路占用許可を受けて整備し、維持管理している)に運び入れた。

※レンタル品の返却時このルートで搬出している。



③ テーブル設置位置出し用の目印の貼り付け

開催日の13時以降の作業を円滑に進めるための方策として、テーブルセットの東西方向の位置を示す目印を、コピス吉祥寺の敷地内に張り付けた。これを事前に行うことで、開始日当日はこの目印から1.5mの位置にテーブルの中心として配置すれば良いようにした。



コピス吉祥寺敷地内に張り付けた目印

(2) 開催日当日

① テーブルセット等の位置だし

道路管理者及び交通管理者からの承諾・許可を受けている13時より、路面にテーブルセットの設置場所を示すためのテープを貼った。



元町通りに張り付けた目印

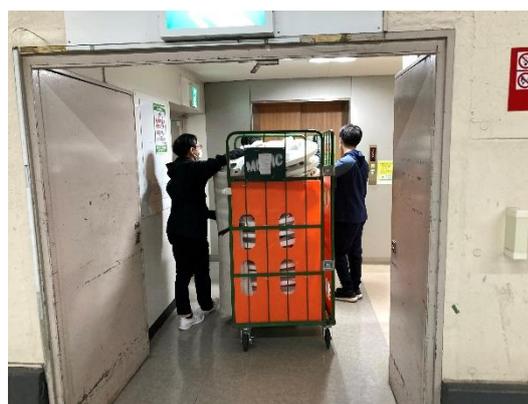
② テーブルセット等の移動

13時より地下通路に保管していたテーブルセットをコピス吉祥寺のエレベーターを使って地上階まで垂直移動させ、段差の小さいペニーレーン側に一度出してから道路を歩いて元町通りまで移動させた。

※20時からの撤去もこのルートで移動した。



地下通路からコピス吉祥寺の地下に移動



コピス吉祥寺のエレベーターで垂直移動



A館を北側に移動 ペニーレーンから元町通りに移動

③ テーブルセットの設置

事前につけた路面の目印を中心にテーブルセット等を配置した。



テーブルセットの設置風景

④ イーゼル等の設置

イーゼルは、沿道建物と道路を行き来する歩行者の導線を考慮し、敷地と道路に対して角度をつけて配置した。また、当日は穏やかな気候で風はほとんど吹いていなかったが、イーゼル等の転倒予防のために一つ一つに重りを載せて固定した。



イーセル等の設置状況

⑤ 利用者の見守りとテーブルの清掃

利用者を見守りながら、退席したタイミングで残地されたゴミの回収とテーブルの天板のふき取りを行った。なお、利用者に対してはテーブルの天板に張り付けた案内文を通じて、ゴミの持ち帰りを促していた。



テーブルの清掃風景

(3) 実体験と自己評価

運営にあたってトラブルなどはなく、円滑に進めることができた。ここでは日常的な取り組みに発展させることを念頭に、課題や改善できそうな項目等を整理したい。

i) 保管場所から設置場所までの移動させる時間と労働的負担の軽減

テーブルセットを地下通路に保管したため、地上部へはコピス吉祥寺のエレ

ベーターを使用して移動した。また、コピス吉祥寺の段差の関係で、ペニーレーンを通るなど水平移動距離も長くなった。

このように保管場所から設置場所までの移動が、運営にあたって最も時間と労働的負担を要した。吉祥寺の商業地域で1階に倉庫を設けることは必ずしも適当とは言えないが、沿道の民有地のグランドレベルの施設に「備品の収納機能」を付加する等の工夫を地域として検討する価値はあると考える。

ii) 備品の工夫

今回限られた予算の中で既製品をレンタルしたが、今後継続的なものとするのであれば以下の視点での製品選びが必要である。

- ・軽量で運搬が容易であること
- ・収納時はコンパクトになること
- ・組み立て及び解体が容易であること

また、要件を満たす既製品がないのであれば、一定の費用負担を伴ってでもオーダーメイドで製作することも選択肢に入れる必要があるかもしれない。さらには道路管理者の許可を得たうえで、路面とセットで設計上の工夫を施す余地がある。例は以下のとおり。

- ・路面にカップを埋め込み、そこにパラソルの支柱を差し込み固定できる工夫
- ・テーブルを固定するための、テーブルの土台と路面を接続させる工夫

iii) テーブルセットの配置場所の明示

今回は実験として行っているため、許可及び承認を得られた13時から路面に目印をつける作業を行った。道路管理及び交通規制の観点から路面への表示は通常認められないが、この取り組みを日常化するのであれば、実施者が気づける程度の目立たない色や大きさで路面に印をつけることで運営の合理化を図れると考えている。

iv) 衛生状態を保つための工夫

今回は利用者の入れ替わりのタイミングでテーブルの天板のふき取りを行ったが、例えばフードコートのように利用者自身が利用後にテーブルのふき取りを行えるような設備やルールを設けることで運営上の負担を軽減することも考えられる。

また、今回はゴミの持ち帰りをルールとしていたが、数が多くないにしてもゴミの残置があった。これについてはBeer and Walkのゴミと併せて処理したが、単独開催を見据えながらゴミ対策について改めて考えていく必要がある。

v) 考察

この取り組みを日常化するためには、運営方法の合理化は必須であると感じている。特にテーブルセットの設営と撤去に伴う労働を軽減することが最重要課題であり、テーブルセットの保管場所や採用する製品の機能、路面の工夫など、様々な取り組みの組み合わせによって最も合理的な方法論を模索していく必要がある。

2.7 制度

6つの要素の内、「制度」は最後に条件を整えるための道具だと認識している。ここでは、今回の実験に先立って行った行政手続き、そして将来的に日常的な取組みとするために必要な法的な位置づけなどの整理を行うこととする。

2.7.1 実験に先立って行った行政手続き

(1) 道路管理者（武蔵野市道路管理課）への実施承認依頼

本来、道路上にテーブルセットを置くという行為は道路占用許可の対象となる行為であるが、元町通りにおいては「無余地性の基準（道路の敷地外に余地がないためにやむを得ないと認められるかどうか）」に適合しないため許可は受けられない。

しかし、元町通りテーブルが①吉祥寺グランドデザイン 2020 に示された「まちなかにおける滞留空間の創出」につながることから、実験的な取組みとして特別に認められた。具体的には、事前に意義や運営について丁寧な説明と協議を行ったうえで公社と商店街の連名での文書「実験的取組みの承認願ひ」を提出し、これに対して道路管理者より承認通知書の交付を受けている。

(2) 交通管理者（武蔵野警察署）への道路使用許可申請

道路管理者との事前協議を終えて概ねの了解を得られたのちに、道路管理者との協議の記録を持参して事前説明を行った。担当者より、実験として道路使用許可が出せる旨を確認したのちに道路使用許可申請書を提出した。

道路使用許可申請手続きにおいては、代表者1名を申請者として許可手続きを行っていることから、公社を申請者とした。

(3) 消防署への消防活動に支障のある行為の届け出

武蔵野消防署吉祥寺支署に対し、公社と商店街の連名で「消防署への消防活動に支障のある行為の届け出を行った。

(4) 武蔵野市への後援名義使用承認申請

武蔵野市に対し、公社と商店街の連名で後援名義使用承認申請を行った。事務手続きは、公社の担当である都市整備部まちづくり推進課である。

なお、例えば将来的に商店街単独での事業となった場合には、産業振興課への相談となる可能性が高い。

2.7.2 将来的に日常的な取組みとするために必要な法的な位置づけ

(1) 都市再生整備計画に基づく道路占用特例

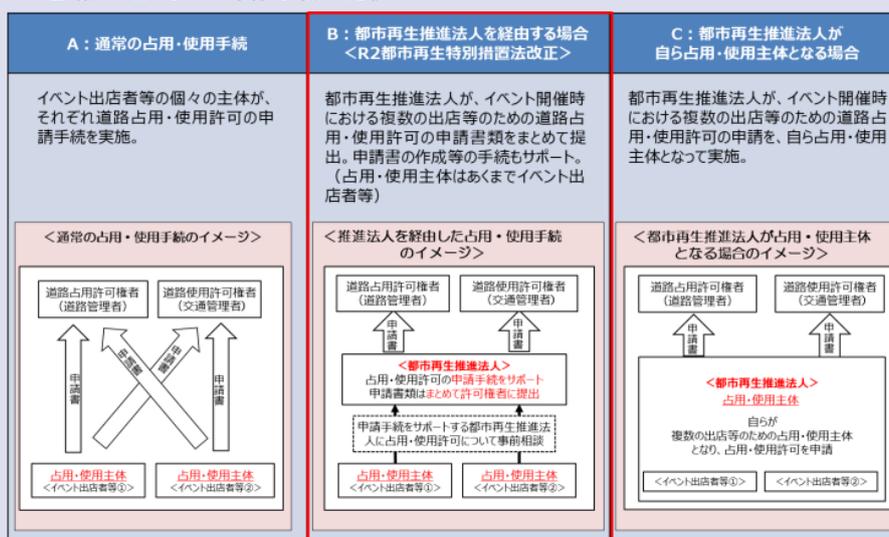
今回の実験は、道路法に基づく占用許可の基準に当てはまらない取り組みであるが、道路管理者が今回の目的や趣旨について理解し、道路上へのテーブルセット等の設置に関して柔軟な対応をしてくれたことよって実施が可能となった。そして、これを実験ではなく日常的な取組みとするためには、道路占用許可の特例を受ける必要がある。道路占用特例を受けるための法律上のメニューは複数あるが、公社が武蔵野市の都市再生推進法人であることや、公社、商店街及びMCUDによる発意による民間のまちづくり活動であることを踏まえると、都市再生特別措置法に基づく道路占用特例を目指すのが妥当である。「元町通りにテーブルセットを置く」という内容を記載した都市再生整備計画を公社が提案し、道路占用の特例を受けることを目指す必要がある。

(2) まちなかウォークアブル区域の設定と都市再生推進法人による申請手続き経由事務

今回の実験を通じて、テーブルの出し入れに関する運営上の課題が明らかになったものの、三者の特徴やそれぞれの関係性が改めて見えてきた。具体的には、商店街やMCUDが占用主体となり、公社が道路管理者と占用主体の間に立って調整を行う関係性である。

(1)に記載のとおり公社が都市再生整備計画を提案するのであれば、元町通りをまちなかウォークアブル区域（滞在快適性等向上区域）を定め、公社が道路占用・使用手続きの経由事務を通じて占用主体をサポートすると共に交通空間としての秩序を保つ役割を担っていくことも考えられる。

参考：道路占用許可等の申請手続の比較



※国交省 HP より

3 まとめ

最後に2.4で記載した2つの目標に関して簡単に振り返りたい。

【目標1】

道路空間内に一時的な滞留空間を創出してみることで都市空間マネジメントに必要な6要素ごとに、“元町通りにおけるウォークブルの在り方”及び“元町通りにおける新たな公共空間の在り方”を模索すること。

【振り返り】

現時点で大規模な都市開発が予定されていない元町通り周辺においてウォークブルの在り方として、「地域団体によって週末の午後2時から午後8時までの時間限定でテーブルセットが道路上に設置され、まちなかにある「誰もが憩える場所（滞留空間）」として開かれている」という理想像は現実的な目標であることを実感した。

そしてこの目標を実現する一つの方法として、地域団体等による労働的負担によって「交通機能」と「滞留機能」を同居させて公共空間を運営していくことの可能性が見出せた。ただし、今回の規模を維持しながら頻度高めていくためには数多くの課題があることも確認した。

【目標2】

「道路空間の一部を週末の午後限定で滞留空間に切り替える取組み」の運営を体験することで、公社、商店街、MCUDの連携関係を構築し、日常的な運営を念頭に運用上の課題等を把握すること。

【振り返り】

実験を通じて、6つの各要素において成果や課題を把握することができた。課題をクリアするためには改善が必要ではあるが、実施後に三者それぞれが取組みの発展に前向きな姿勢を持つことができている。この事実だけでも、三者の連携関係を構築できたものと考えている。

元町通りテーブルは、吉祥寺グランドデザイン2020やNEXT-吉祥寺2022に描かれたビジョンの一端を、民間の力によって実験的に創出したものである。ウォークブル推進都市である武蔵野市内で実施されている関連事業は市が主導しているものであり、他の民間団体が実施している取組みにおいては慣例となっている行事や一時的なイベントとして実施されているものである。元町通りテーブルは、民間団体の主導した日常の暮らしを変えていく取組みであるという点において、武蔵野市では初めての事例ではないかと考える。また、異なる複数団体が互いの性格を理解したうえで各自ができる負担をしながら連携関係を構築できたことも、非常に重要な成果であったと捉えている。

元町通りテーブル実施報告会（武蔵野市役所）

日 時 2022年12月14日（水）13:30～14:30

場 所 武蔵野市クリーンセンター 管理棟2階 見学者ホール

報告者 武蔵野市開発公社 笠原、山木、西山

元町通り商店街 千葉、星井（組合員：三菱商事都市開発）、諸岡（同左）

参加者 武蔵野市職員 18名



■参加者からのコメント（事後アンケートの内容を含む）

- ・来街者の方にとっては、新しい魅力の発見につながったのではないかと。
- ・滞留ポイントができると、それ以外のところの人流がどう変わるのか知りたい。
- ・長時間留まる人がいたとのことだが、今後の事業展開を考えたとき制限するのか。
- ・三鷹駅周辺の社会実験でも、障害者にとって外での飲食スペースがあると助かるという声が届いている。引き続き、誰もが憩える場所の創出の取組みを進めてほしい。
- ・元町通りは道路利活用を行うための条件は抜群に揃っており、ぜひ今後も継続的に実施してもらいたいと思いました。
- ・三鷹では障害者対応に関し、市障害者福祉課から当課が把握している視覚障害者に直接情報提供をしてもらったり、当課より色彩の工夫についてアドバイスをもらった。
- ・景観の部分（レンタルした机と椅子を置くだけ）はもう少し工夫ができればよい。
- ・今後商店街が主体となるのであれば、補助金をうまく活用していただきながら推進していただきたいと思います。
- ・ヒト、モノ、カネ、そして制度の壁によりなかなか実現できなかった道路空間上の滞留空間づくりを実際にやってのけた行動力はすばらしいと感じました。
- ・方向性としては素晴らしく、あとは個別的なオペレーションの課題を一つ一つ解決していくことが重要だろうと思う。
- ・「吉祥寺に住む自分は利用するか」を考えてみた。結論としては率直に言って利用しないかもしれない。その理由は、①土日は街が混雑するためぶらぶら歩くこともないこと、②飲食店は予約して利用すること、③知り合いに見られたら恥ずかしいこと。